群教セ	G02 － 03
	令4.281集
	社会－中

課題に対して根拠をもって考え、考えたことを表現できる生徒の育成

――ＩＣＴを活用した既習事項の蓄積と考えたことを共有する活動を通して――

特別研修員　剣持　智之

Ⅰ　研究テーマ設定の理由

令和４年度学校教育の指針では、「自分の頭で未来を考え、動き出し、生き抜く力を持った始動人の育成」が示されており、生徒が自分で考え、動けることの重要性が指摘されている。

研究協力校（以下、協力校）の生徒は、社会科の授業において、既習事項を用いて考えさせる場面になるとうまく知識を活用できず、消極的になってしまう様子が見られる。また、考えを表現する場面においても、知識はある程度定着しているが、自分の考えに自信がないため、なかなか自己表現ができない生徒が多い。

そこで、根拠をもって自分の考えをもたせるために、一人一人が既習事項を蓄積し、授業で扱う資料以外にも考えの根拠として活用できるようにする。また、ＩＣＴを活用して、考えたことを表現したり、考えを共有したりすることで発表等の自己表現が苦手な生徒も、自分の考えを表現しやすくなるのではないかと考え、上記のようにテーマを設定した。

Ⅱ　研究内容

１　研究構想図

２　授業改善に向けた手立て

手立て１　既習事項の蓄積と活用

既習事項を単位時間ごとのワークシートだけでなく、単元のまとめを文書作成ソフト等で作り、端末に保存していく。それを全員が見られるようにすることで、授業中の根拠をもって考える場面や既習事項を使って話し合う場面、家庭学習などで活用する。

手立て２　ＩＣＴを活用した共有

ホワイトボード機能ソフトや表計算ソフトなどを使い、意見を共有する。友達の考えや意見をリアルタイムで見ることができるため、自分の考えを更新していくことができる。また、短時間で共有することで、話合いなどの活動に時間を費やすことや、全体で共有したものを学習成果物として蓄積していくことができる。

手立て３　ＩＣＴを用いた自己表現

ホワイトボードや付箋、意見集約機能を使い自分の考えを表出させる。話合い活動などと組み合わせながらＩＣＴを活用して自分の考えを表現させていく。また、集約された意見を基に、自分の考えを更新したり深めたりすることができる。

手立て１の既習事項の蓄積と活用は、学習成果物やまとめ等を端末上に保存し、共有していくことで、基礎・基本の定着を図ったり、考えの根拠として使ったりする取組である。紙のワークシートによる蓄積と異なるのは、紛失や破損を防げることや、大きな成果物も保存できること、友達のワークシートも共有できることなどである。同じ学習をしてきた友達の様々な視点やまとめ方に触れることで、個人の学習の参考にもなる。また、その既習事項を振り返り、活用することで、自分の考えをもつときの根拠とすることができる。

手立て２のＩＣＴによる交流や思考の共有は、従来の個人による発表や発言の数倍早く、全員と情報共有することができる。多くの考えに触れることができると同時に、友達の考えを参考にして自分の考えを更新していくことが容易になる。考える時間を確保したり、話し合ったりする活動に時間を費やせるなど、授業の効率化を図ることもできる。

手立て３は、考えていることを上手く表現できない生徒や、コミュニケーションが苦手な生徒の自己表現を補助するツールとして活用したり、発表や話合い活動の円滑化を図ったりすることが目的である。また、表計算ソフト等で作成する意見集約用シートなどを活用することで、自分の思考を深め、まとめることにもつながる。

Ⅲ　研究のまとめ

１　成果

○　課題に対して話し合う場面において、蓄積した成果物を使い、過去の学習を振り返ったり、考えの根拠として活用したりしていた。

○　ホワイトボード機能のソフトの活用が、自分の考えを容易に表現することにつながり、話合い活動がズムーズに行われた。

○　意見集約用シートのまとめを活用したことで、自分のまとめと他の人のまとめを比較し、自分の考えを更によくしようとする様子が見られた。

２　課題

○　既習事項の振り返りや参照を特定の作業の時だけでなく、生徒が必要なときに随時参照することができれば、思考の補助になると考えられる。

○　更に効果的な話合いができるよう、時間をかける場面以外の効率化をＩＣＴの活用により図る必要がある。

実践例

１　**単元名**「関東地方」（第２学年・２学期）

２　**本単元について**

本単元は、ここまで学習してきた日本の気候や産業、特色などの視点から日本の諸地域について考察する学習である。この節では、まず関東地方の学習に取り組むに当たっての単元の学習の見通しをもち、単元の学習課題を設定する。追究する過程では、関東地方の交通通信、人口を中心に関東地方の特色をつかみ、既習事項と結び付けて考察したり、理解を深めたりする学習を行う。最後に、関東地方は全国だけでなく、世界とのつながりが深い地域であることに気付けるよう単元の課題の振り返りとまとめの活動を行う。

本単元では、既習事項や知識を活用し、関東地方の特色について理解を深めるため、首都機能に着目したり、他地域との比較をしたりする活動を取り入れ、以下のような指導計画を構想し実践した。

<table>
<tr><td>目標</td><td colspan="2">関東地方の地域的特色について、国内や世界とのつながりに着目して次の事項を身に付けられるよう指導する。
ア　関東地方の交通や通信を中心とした日本や世界とのつながりについて、資料を活用しながら関東地方の地域的特色を読み取り、理解することができる。（知識及び技能）
イ　関東地方の地域的特色を交通や通信などの面から日本の諸地域や外国との結びつきなどと関連付けて考察し、自分の言葉でまとめることができる。（思考力、判断力、表現力等）
ウ　関東地方の人口や交通、通信などの特色について概観する中で、設定した追究テーマをもとに地域的特色を主体的に追究しようとしている。（学びに向かう力、人間性等）</td></tr>
<tr><td>評価規準</td><td colspan="2">(1) 知識・技能
関東地方の交通や通信を中心とした日本の諸地域や世界とのつながりについて、資料を活用しながら関東地方の地域的特色を読み取り、理解している。（知識・技能）
(2) 思考・判断・表現
関東地方の地域的特色を交通や通信などの面から日本の諸地域や外国との結びつきなどと関連付けて考察し、自分の言葉でまとめている。（思考・判断）
(3) 主体的に学習に取り組む態度
関東地方の人口や交通、通信などの特色について概観する中で、設定した追究テーマをもとに地域的特色を主体的に追究している。（主体的に学習に取り組む態度）</td></tr>
<tr><td>過程</td><td>時間</td><td>主な学習活動</td></tr>
<tr><td>つかむ</td><td>第１時</td><td>・単元を見通し、単元の学習課題をつくる。
《首都はなぜ関東地方（東京）にあるのだろう？》</td></tr>
<tr><td rowspan="4">追究する</td><td>第２時</td><td>・関東地方の地名や地形、自然環境について調べ、関東地方の自然環境の特徴を考察する。
【地形・自然環境】</td></tr>
<tr><td>第３時</td><td>・資料から東京が世界各地とどのように結びついているのか考察する。
【世界との交通・アクセス、世界都市】</td></tr>
<tr><td>第４時</td><td>・東京と周辺の都市がどのように結びついているか考察する。
【国内の交通網、東京大都市圏、人口】</td></tr>
<tr><td>第５時</td><td>・関東地域の工業地域や農業について調べる。
【工業地帯、近郊農業】</td></tr>
<tr><td>まとめる</td><td>第６時</td><td>・単元の問いに対する答えを考察し、まとめる。</td></tr>
</table>

３　本時及び具体化した手立てについて

本時は全６時間計画の第６時に当たる。「なぜ首都は関東地方に置かれているのだろう」という単元を貫く課題に対して、既習事項を根拠として自分の考えをもち、交流する活動を取り入れてまとめていく。具体的には、ここまで蓄積してきた本時及び日本の姿～中部地方までの単元のまとめを活用して考えをもち、グループによる交流を通じて考えを深めていく。

手立て１　既習事項の蓄積と活用

関東地方についての学習を想起したり、他の日本の地域と比較したりする際に、考えの根拠として活用する。自分だけでなく学級全員の学習の蓄積を閲覧できるようにしてあるため、様々な視点から必要な情報を得たり想起したりすることができる。また、本時のまとめも全員が意見集約用シートに記入することで、多様な視点からのまとめを残し、蓄積していくことができる。

手立て２　ＩＣＴを活用した共有

ＩＣＴを用いて思考の共有を短時間で行い、交流や考えを深める時間を確保する。ホワイトボード及び付箋機能を使うことで、グループや全体の考えの共有が短時間でできるため、話し合って考えを深める活動に時間を費やすことができる。

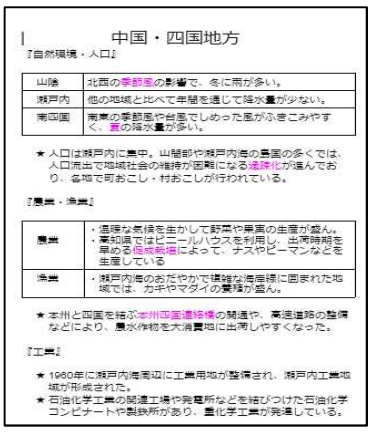
手立て３　ＩＣＴを用いた自己表現

意見集約用シートを作成し、自分の考えを入力させる。全員の考えが共有できるため、考えをまとめることが苦手な生徒にとっては、友達の考えを参考にして自分の考えをもたせる手立てとすることができる。また、自分の意見が書ける生徒にとっても、友達の考えを参考にし、考えを深めることにつながる。

４　授業の実際

(1)　手立て１　既習事項の蓄積と活用

単元の課題に対する答えを考える場面では、関東地方の学習を振り返るためにワークシートや本単元の成果物を参照しながら考えている場面が見られた。関東地方の地域的特徴を捉えるための話し合いの際にも、過去の学習の蓄積を見ながら、各地方の特徴を踏まえた話合いをする様子が見られた。具体的には、「九州地方は自然災害が多いから厳しいと思う。」「中国・四国地方も交通は発達してきたが、国内や海外から人が集まる首都としては不十分ではないか。」など、学習してから時間が経過した単元の内容についても深く話し合うことができていた（図１）。


中国・四国地方

『自然環境・人口』

山陰	北西の季節風の影響で、冬に雨が多い。
瀬戸内	他の地域と比べて半島を通して降水量が少ない。
南四国	南東の季節風や台風でしめった風がふきこみやすく、夏の降水量が多い。

★人口は瀬戸内に集中。山間部や瀬戸内海の島国の多くでは、人口流出で地域社会の維持が困難になる過疎化が進んでおり、各地で町おこし・村おこしが行われている。

『農業・漁業』

農業	・温暖な気候を生かして野菜や果実の生産が盛ん。 ・高知県ではビニールハウスを利用し、出荷時期を早める促成栽培によって、ナスやピーマンなどを生産している
漁業	・瀬戸内海のおだやかで複雑な海岸線に囲まれた地域では、カキやマダイの養殖が盛ん。

★本州と四国を結ぶ本州四国連絡橋の開通や、高速道路の整備などにより、農水作物を大消費地に出荷しやすくなった。

『工業』

★1960年に瀬戸内海周辺に工業用地が整備され、瀬戸内工業地域が形成された。
★石油化学工業の関連工場や発電所などを結びつけた石油化学コンビナートや製鉄所があり、重化学工業が発達している。

図１　端末に蓄積した既習事項

（2）　手立て２　ＩＣＴを活用した共有

導入から展開に移行する場面で「自分が首都を置くならどのような条件の地域に設置するか」という発問から、首都を置くのに適した地理的条件を考え、ホワイトボード機能ソフトを活用して共有した。グループ内で出てきた意見を地理的視点で考えて優先順位を付け、それに関東地方がどの程度当てはまっているか話し合ったが、画面上に全員の意見が可視化されているので、その考えの理由や根拠を出し合い、話し合って思考を深めるのに十分な時間を費やすことができた（図２）。話合いの場面においては、自分の考えと違う意見を出した友達に理由を尋ねる様子も見られ、話合いが活性化していた。また、リアルタイムで意見の追加やグルーピングが反映されるため、他のグループのボードを参考にしている様子も見られた（次頁図３）。

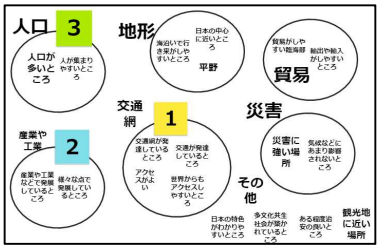


図２　話し合い内容を共有

（３）　ＩＣＴを用いた自己表現

図３　他のグループの意見も参考にして話し合う生徒

本時は、まとめの場面で個人個人がまとめを意見集約用シートに打ち込んで共有する場面を設定し、自己表現が苦手な生徒の意見も全体で共有できるようにした（表１）。普段は、発言できなかったり尻込みしてしまったりする生徒も、ＩＣＴ各種ソフトへの書き込みでは自分の考えをしっかりと書き込むことができ、その後の話合いでも書き込んだことを見ながら発言することができていた。さらに、まとめを上手く書くことができない生徒が、先に書き込んだ生徒の意見を参考にしながら自分の考えを書き込む姿や、自分の考えを深め、書き込んだ内容を書き直す様子も見られ、リアルタイムで意見の共有ができるＩＣＴのよさが見られた（表２）。話合いの中で、自分の意見が取り入れられたり、認められたりしたことで、安心感をもって意見を言えたという生徒も見られたことで、目指す生徒像である「自分で考えたことを表現できる生徒」に迫ることができた。

表１　個人のまとめの作成と共有（一部抜粋）

首都はなぜ関東地方に置かれているのだろう？	
生徒１	交通手段が発達していたり、平野だったりと首都を置きやすいところだから
生徒２	交通手段、経済、産業などが発達しているから。
生徒３	交通手段や広い平野（土地）、海があったりするので海外の人ともつながりやすく、色々な面で発達しているから。
生徒４	平野が多く交通・通信網が発展し、しかも海と面しているので海外との貿易も便利だから。
生徒５	平野や海に面している場所が多く、交通・貿易・産業が発達していて経済的にも中心になっているから。
生徒６	平野が多く交通手段が発達していて、海に面しているので海外と貿易しやすいから。
生徒７	地形が平野で建物が立てやすく、交通手段が豊富＋発達していて、空港や海に面していて貿易などに便利だから
生徒８	交通、経済、産業などの様々なものが発達していて日本の各地や海外との結びつきが強いから。
生徒９	なぜ関東地方に首都があるのかは、関東平野があり建物が建てやすく、海があるので海外との交易もできるから。

表２　表１の生徒の最終的なまとめ

生徒１	沿岸部に立地しているため、海外との交流がしやすいから。また、平野で後背地が広いため、交通手段が発達して大都市が成立しやすいし、人々の往来が活発だから。
生徒２	東京は、情報通信技術などの多くの企業が集中し、多くの人々が集まりやすい環境があり、交通、経済、産業が発達しているから。

５　考察

根拠をもって考えることについては、自分の考えを表現する際に、既習事項や資料を根拠に自分の考えを伝える様子が見られた。自分の考えを説明する際に、単に自分の考えを伝えるのではなく、根拠をもって自分の考えを伝える事の大切さを感じ取れたのではないかと考える。また、蓄積してきたものを課題に合わせて効果的に活用する姿も見られた。さらにワークシートのような紙などの具体物による蓄積以外にも、グループで作成した学習成果物を写真に撮って保存していくことも、自分の考えをもたせる際に非常に効果的であると思うので、今後もいろいろな方法で学習成果物の蓄積を行っていきたい。

ＩＣＴを活用しての交流や自己表現については、活動に慣れてくると、今まで言葉で自己表現することが苦手で意見を表出させられなかった生徒でも、ＩＣＴを活用することで自己表現できる場面が増え、積極的に活動に取り組めるようになってきた。「自分の書いた意見が友達に認められることで、自信をもつことができた」と振り返りに書いている生徒もおり、徐々に考えたことを表出できる生徒が多くなってきた。短時間・リアルタイムで思考の共有ができることで、友達の考え方を取り入れながら思考を深める様子も見られ、ＩＣＴ活用の一つの成果が出たと考えられる。

しかし、自己表現を全てＩＣＴで完結させてしまうのは表現力の育成としては不十分であり、自分の考えを言語化する活動や、話合い活動などと組み合わせていく工夫が今後も必要である。